

## 第5回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事録

日時：平成28年11月21日（月）09：00～11：00

場所：松戸市役所別館地下1階研修室

出席者：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、池澤委員、小川委員、村山委員

欠席者：原田委員

### ○ 議事

- (1) 前回の議事の確認
- (2) 全体計画について
- (3) モデル地域計画について
- (4) 個別プロジェクトについて
- (5) その他

#### (2) 全体計画について

事務局より、松戸市の人口・児童数推計から将来の学級数を予測し、その規模に応じた小・中学校の縮小シナリオと再配置シナリオとそれぞれの更新費用について説明。

#### <主な意見>

- ・ 面積だけを削っていくのは限界がある。すべてをRC造で考える必要もなく、もっと軽量の鉄骨造や木造を考えるべきではないか。建設単価そのものは職人不足等を背景に上昇傾向にある。また、民間と公共だと維持管理の水準も異なる。
- ・ 統廃合等により空いた学校跡地の有効活用を考えるべきではないか。前向きな再編のあり方を考えていければよいのではないか。
- ・ 扶助費の費用にどれだけその他の課題を重ねられるかにかかっている。建設系の職員は国交省系の施策を以前は学んでいたが、現在では地域包括ケア等の厚労省系の施策を学んでいる。
- ・ 介護の地区割りと民生委員の地区割が一致しておらず、協働している地域とそうでない地域がある。地区割をどのように松戸市が考えているかは気になることである。
- ・ 小学校区で地域活動を行っていると思われる。施設を整理することは地域活動も見直しを行うということになる。
- ・ 実際のシナリオでは再配置や施設の複合化だけでなく、土地の需要を考える必要がある。跡地として活用できる面積がどの程度あるかをデータとして把握する必要がある。
- ・ 立地適正化計画については、狭く都市機能誘導区域を設定する地域と広く設定する地域がある。地方は狭く設定するケースが多いが、松戸のような郊外ベッドタウンであれ

ば、広く設定して多拠点で考えていく方向性かもしれない。

### (3) モデル地域計画について

事務局より、小金原ビジョンブックの修正目次案について説明。

村山委員によるレクチャー。

#### <主な意見>

- 小金原は、都市基盤がしっかりしていて、区画整理を行っているので、道路、とくに歩道が広く、街路樹・公園等の緑も豊かであり、鉄道駅から遠い一方、静かで落ち着いたところにまちの中心となるタウンセンターがあるのが強みではないか。
- まちのキーパーソンをどのように集めるかが重要。ビジョンブックにも地域で活動している団体等のデータを掲載すべきでは。
- ビジョンブックの第 3 章（小金原地区の暮らしの将来像）について。教育、福祉、都市計画などの各種計画の把握はもちろん、地域活動の実態、既存の組織がどのように活動しているか知る必要がある。アンケートやヒアリングが必要かと思うが、地域で活動している団体等のリーダーを中心にヒアリングをしたほうがよい。また、高齢化について問題意識を持っている人や企業へのヒアリングを行ってもよいのではないか。
- 行政がリードしていく必要があるが、地域の人が自分たちのものだと思えるものをつくっていく必要がある。成熟した議論ができるところと、むしろ分裂してしまうところとあり、参加のプロセスの設計を行っていく必要。
- 庁内関係部署との連携を図り、行政側の窓口をひとつにまとめて、地域と対話していく必要があるのではないか。

### (4) 個別プロジェクトについて

事務局より、事務局より官学連携事業の進捗報告・事業実施方針の説明。

千葉大より検討案の説明。

#### <主な意見>

- 東松戸のタウンマネジメントの観点からどのような施設が望ましいか考える必要がある。
- 新規施設であるが、これからの松戸市の施設マネジメントのあり方を示すパイロットモデルとして考える必要があり、市全体の再編計画との関係性を明確にする必要がある。

次回 2/16(木) 午後1時30分～<※午後3時30分～ に変更>

(以上)